

発展に資する学術の具体的方策を審議提言する。

(3) 学術研究の国際貢献の重視

学術研究は、本来、真理の探究を目指す知的活動であり、その成果は広く人類共通の資産として共有されるべきものである。したがって、学術の国際交流は、学術研究にとって本質的に重要であり、その在り方に常に関心を払う必要があることは言うまでもない。

さらに近年は、国際平和の推進や環境問題の解決等、いわゆる地球的あるいは国際的規模の課題について、我が国の研究を充実させつつ、広く世界の諸科学の発展を積極的に推進する需要が増大している。また、発展途上国及び近隣諸国の学術振興のため、これら諸国の研究者に協力して、貢献策を立案することが強く要望されている。これらのことから、我が国の科学者が今後積極的に国際貢献に取り組み、学術を人類の繁栄と世界の平和に役立てるため積極的な役割を果たすことが必要となりつつある。

以上のような状況から、本会議が築いてきた国際学術交流・協力の在り方についての諸原則と実績を基盤として、学術の国際交流・協力の飛躍的な拡充強化を図り、国際的寄与を格段に拡大することが極めて重要である。

2. 具体的課題(要旨)

次の課題を選定した。

- (1) 科学者の倫理と社会的責任
- (2) 学術研究の長期的展望
- (3) 研究基盤の強化と研究の活性化
- (4) 研究者の養成
- (5) 学術情報・資料の整備
- (6) 学術研究の国際交流・協力
- (7) 国際対応への積極的取り組み
- (8) 文化としての学術
- (9) 平和と安全
- (10) 死と医療
- (11) 生命科学と社会的諸問題
- (12) 人口・食糧・土地利用
- (13) 資源・エネルギーと地球環境
- (14) 巨大システムと人間

3. 具体的課題への対処及び臨時(特別)委員会設置について(省略)

注:国際対応委員会の扱いは常置委員会の並びとする

◇今回の総会決定により設置された特別委員会◇

- ・文化としての学術
- ・平和と安全
- ・死と医療
- ・生命科学と社会的諸問題
- ・人口・食糧・土地利用
- ・資源・エネルギーと地球環境
- ・巨大システムと人間

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

天文学の普及をめざして「教育・研究者の集い」の報告

天文学会秋季年会の2日目、10月16日17時30分より、日本天文学会と天文教育普及研究会との共催で、表記の会合が約100名の参加を得て開催された。学会会期中に、しかも学会が共催してこの種の集まりがもたれた意義は大きい。企画にあたられた茨城県立岩井高校の高橋 淳氏のご努力の賜である。

さて、集まりは筆者の司会で始まり、天文教育普及研究会代表世話人・磯部瑠三氏のあいさつの後、研究者、愛好者、教育者のそれぞれの立場から、森本雅樹氏、杉田敦男氏、鈴木文二氏が報告を行った。森本氏は、天文学研究の目的は宇宙や星について調べ、それを後世に残していくこととし、天文学研究の基盤を確立するためにエンターテインメントが必要と強調した。杉田氏は、地元のアマチュア活動の紹介をし、天文学の底辺を広げるため、星に興味を抱かせる活動の重要性を指摘した。鈴木氏は、教育現場の実状を紹介し、天文学研究への情熱を持続、発展させる上での様々な困難を具体例をあげ報告した。これらの報告を基調として「宇宙を知る、感じる、伝える」と題したパネルディスカッションでは、互いの立場を尊重しながら、互いの利益のために、互いが何をすることができるかが議論された。参加者からも多くの事例報告や意見が出されたが、指導要領から天文が大きく削減されている実態をはじめ、様々な側面で門が閉ざされようとしている社会構造への批判も出され、天文のすばらしさを感じられるような活動をあちこちで展開する必要性が指摘された。初めての集まりということと、司会の不手際で、議論のまとめらしいものはできなかったが、この種の会合の重要さは認識し合えたと思う。また、研究者にも現状を知ってもらうため、もっと多くの参加を希望する声があったことも付け加えておきたい。黒田武彦(西はりま天文台)